

【専門教育科目/看護の展開/在宅看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
在宅看護学実習Ⅱ (訪問看護ステーション)	NSP34_009	必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡邊美樹 他	303	m-watanabe	水曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	在宅療養者とその家族の生活を把握し、健康障害や生活障害を持ちながら在宅でその人らしい生活を送ることを可能にする看護を考え、在宅看護に必要な基礎知識・技術・態度を学ぶ。具体的には、訪問看護ステーション等の在宅療養者を支援する機関の機能と看護師の役割を理解し、地域ケアシステムの構築への方策を検討する。実習方法は、訪問看護師との同行訪問、在宅療養者を支える機関での見学、事例演習等を行う。				
学習上の助言	在宅看護学実習Ⅰで学んだ地域における看護活動の意義を踏まえて、在宅看護の特徴である、療養者や家族の“希望”を尊重した援助のための看護の役割について実践を通して学んでほしい。				
教科書	ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア/編:臺由桂他/メディカ出版/2019				
参考書	強みと弱みから見た在宅看護過程+総合的機能関連図/編:河野あゆみ/医学書院/2018				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	在宅場面で行われる看護や対象者に興味を持ち、主体的に実習に取り組むことができる			NS(1)、(5)	
②	在宅療養者やその家族との関わりを通して、在宅看護ニーズの多様性と、在宅看護活動の特性を理解できる			NS(2)～(3)	
③	在宅療養を支える制度や社会資源を把握し、在宅療養生活を継続させる方策を考えることができる			NS(2)～(4)	
④	在宅看護における関係機関や関係者との連携や協働の重要性を理解し、関係機関との調整において看護師が果たす役割を理解できる			NS(2)～(4)	
⑤	地域ケアシステムの中で看護職が果たす役割を知り、実習で経験した地域ケアシステムを評価・検討することができる			NS(1)～(5)	
授 業 計 画					
<p>1. 実習時期と期間 3年次後期 2週間</p> <p>2. 実習施設 おおくに訪問看護ステーション、富士北麓訪問看護ステーション、つる訪問看護ステーション、甲府訪問看護ステーション すずかけ、訪問看護ステーションほほえみ、いちのみや訪問看護ステーション、おおくにクリニック、上條内科クリニック、都留市立病院、甲府共立病院、甲府共立診療所、一宮温泉病院 (予定)</p> <p>3. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問看護師に同行する 訪問看護ステーションのオリエンテーションを受ける 訪問看護師に同行し、療養者宅へ訪問する 同行した看護師の指導のもとで援助に参加する 同行訪問事例の実習記録をまとめる</li> <li>2) 在宅療養者を支える機関での実習 外来看護、病院内医療連携室、訪問診療における活動の見学を行う</li> <li>3) 事例演習 ワークブックに沿って、教員の助言を受けながら各自で事例演習に取り組む</li> <li>4) シミュレーション演習 在宅療養者の病状変化に対応する看護判断を、演習を通して考える</li> <li>5) 実習体験報告会 同行訪問の体験や見学実習における学びを報告会で発表する</li> <li>6) 日々の学びを実習記録にまとめる</li> </ol>					
学習課題・学習時間 (時間)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例演習や日々の学びを記録にまとめる中で、在宅看護の特性を理解し、地域における看護活動の特性を考察していく。</li> <li>・実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。</li> </ul>					
必要時間： 10時間					

【専門教育科目/看護の展開/在宅看護学】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	50	20	10	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	5	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	10	0	5	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	0	5	0	15
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①	✓	「本日の実習記録」において、日々の実習目標を立て、教員のチェックを受ける。さらに、実習の学びをまとめ翌日提出する。「事例演習ワークブック」の記載により、在宅看護の知識・思考・推論・創造する力を教員により評価する。実習終了時には「実習のまとめレポート」をまとめ指定期日までに提出する。				「本日の実習記録」をもとに、学生の理解度を確認し、個別かグループで振り返りの機会を作る。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	訪問看護師との同行訪問、在宅療養者を支える機関での体験や学びについて、カンファレンスおよび学内での報告会を行う。				カンファレンスや報告会において指導者および教員から講評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①	✓	日々の記録など学習した内容の資料を整理し、実習終了後に提出する。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	学生が到達すべき行動目標①～⑤の到達度、および、実習への姿勢について教員により総合的に評価する。				学生の自己評価をもとに、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	山崎洋子、望月宗一郎、伊丹幸子、馬淵路子						
教 員 の 実 務 経 験	担当する教員は、保健所・市町村における行政保健師活動および訪問看護活動、さらに病院における外来業務や医療連携室での退院支援や療養生活相談等の経験を有する。						
実 践 的 授 業 の 内 容	看護師や保健師としての経験をもとに、地域で生活する対象者の健康を支える看護の実際を、現場の公衆衛生看護活動に意味づけしながら指導し、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識の習得を目指す。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学が公表している感染対策および教員が示す実習方法を遵守すること。</li> <li>・学外での実習の際、公共交通機関を利用した移動となるが、感染予防行動を徹底するとともに、日ごろから自身の体調管理を心掛けること。</li> <li>・実習施設では、実習指導者の指示に従って行動すること。</li> <li>・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更が生じる可能性がある。</li> </ul>						